

# 欠損駆動思考の構造論

## 意識における3つの構成的視点

DIN Next LT Pro  
Noto Sans JP

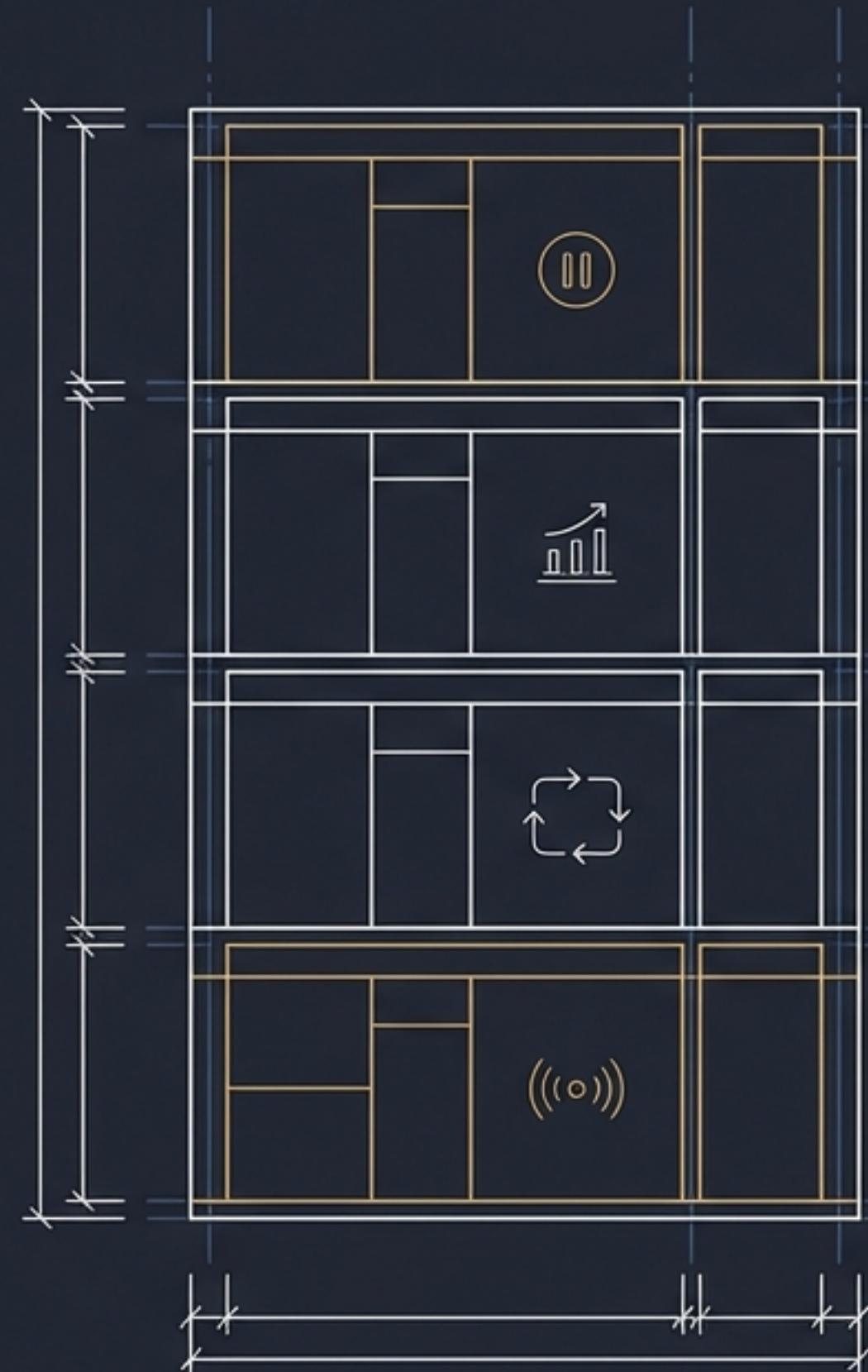


DIN Next LT Pro  
The Architecture of the Mind

# コア定義：誤差と欠損の断絶

AIは予測誤差を計算するが、人間は予測誤差を経験する。





L3: Withhold  
(保持・再評価 / dlPFC, ACC)

L2: F-O Valuation  
(情動的評価 / Amygdala, vmPFC)

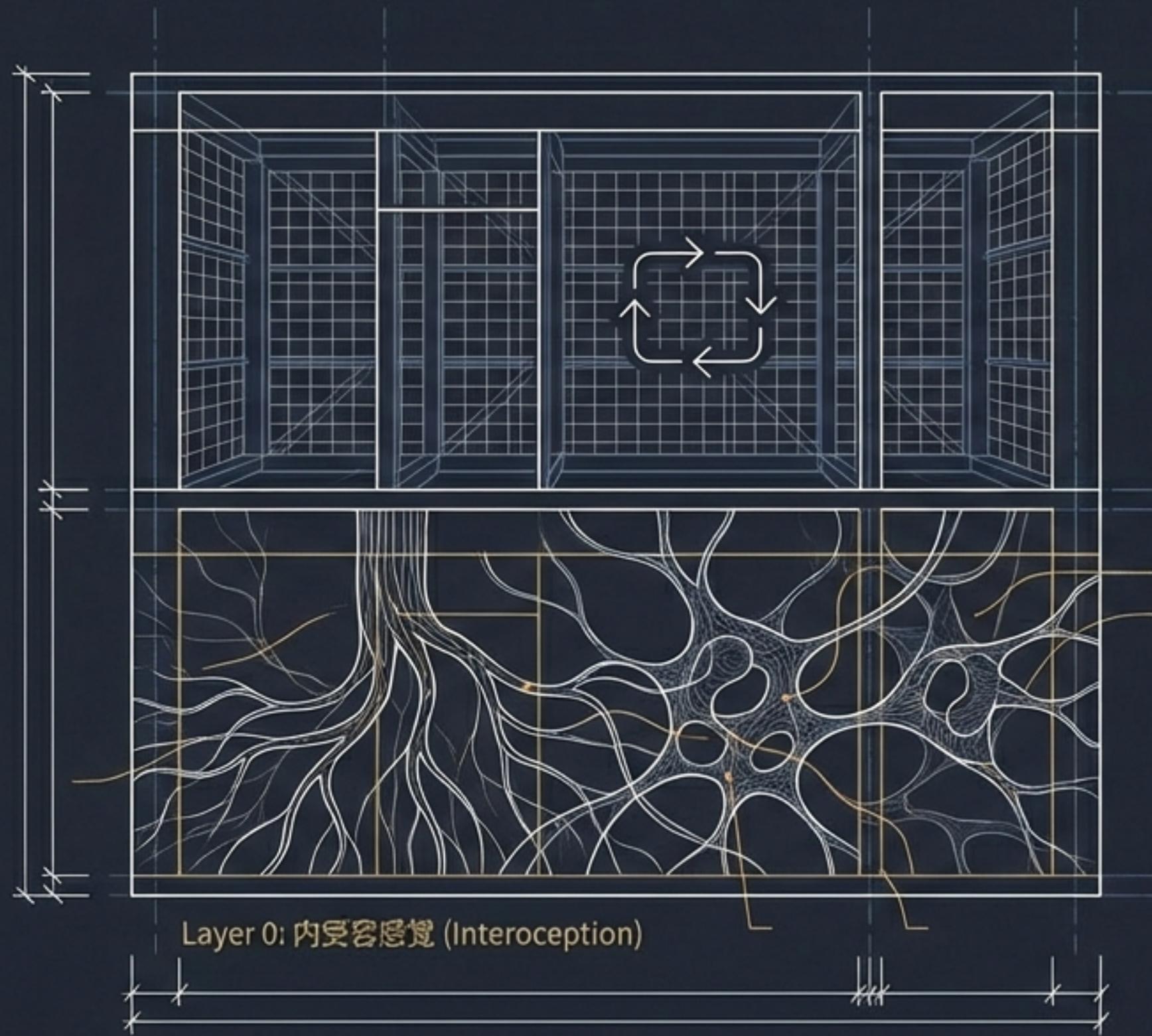
L1: Prediction-Error Loop  
(予測-誤差 / Cortex)

L0: Interoception  
(内受容感覚 / Insula)

## 視点1：垂直的階層構造 (M1)

意識は平面的ではなく、身体的基盤 (L0) から  
メタ認知的保持 (L3) への積み上げとして存在する。

# 基盤層：身体が感じなければ、欠損は生じない

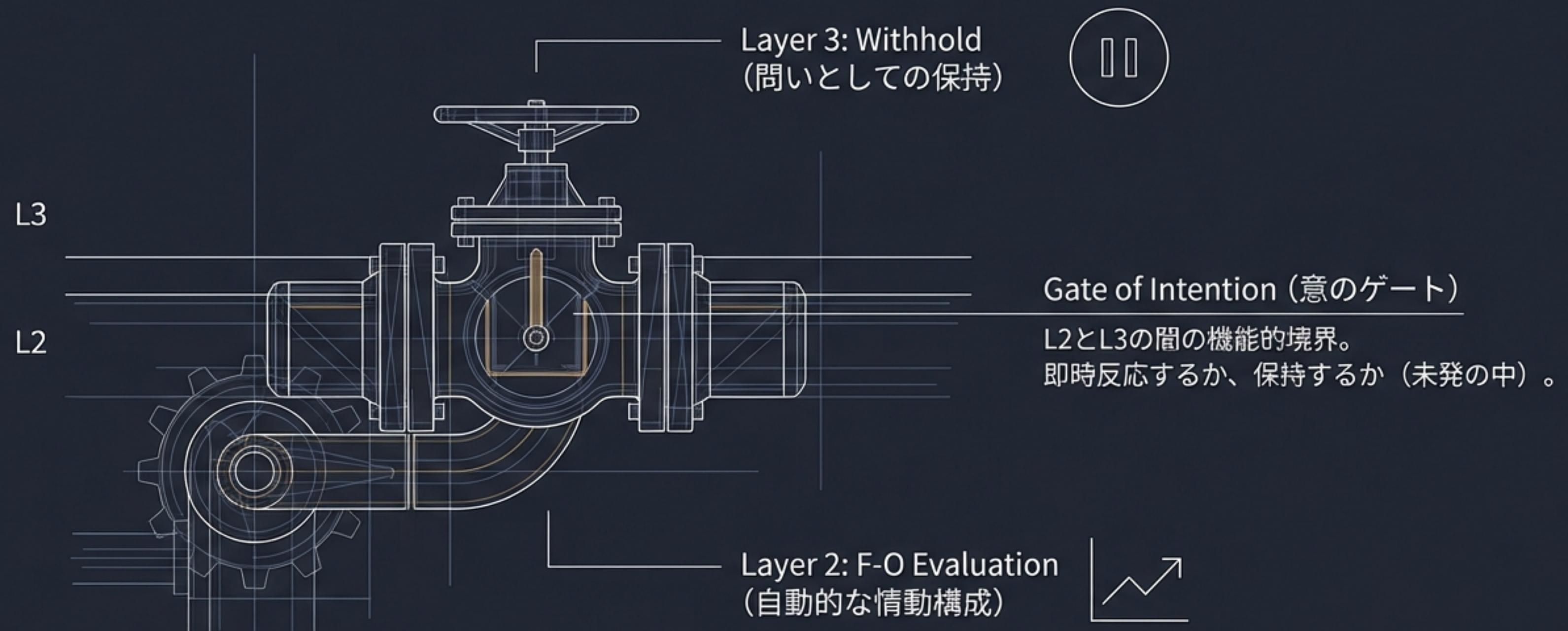


E07: Layer 0が作動しなければ、  
予測誤差は「計算」されても  
「経験」されない。

AIが欠損を経験しないのは、  
この身体的基盤 (L0) を欠いて  
いるためである。



# 上層構造：意のゲート



## 視点2：空間的座標構造 (F-O Coordinates)



すべての欠損は、この2軸上で直ちに評価される。

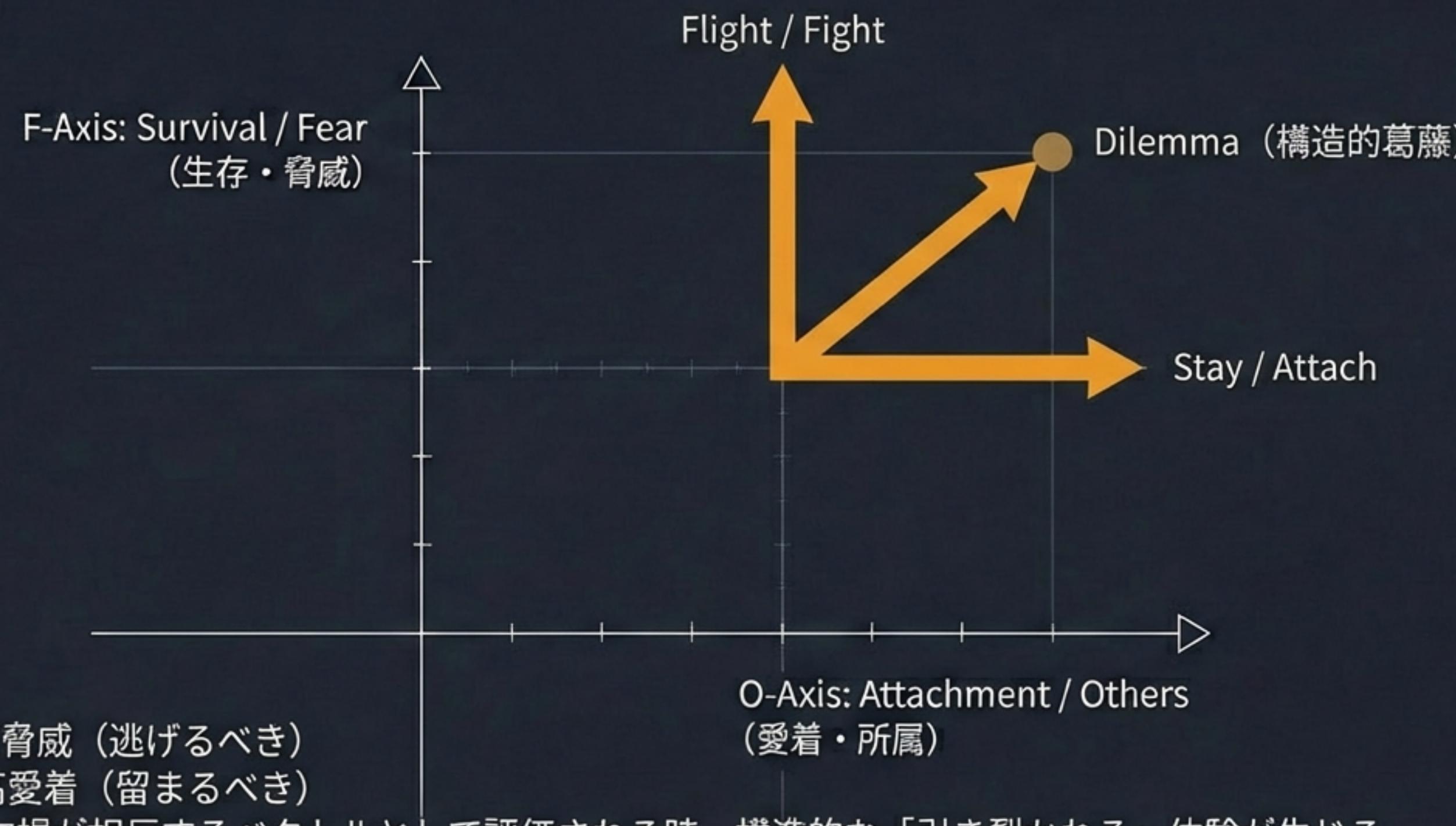
DIN Next LT Proこなし、「Noto Sans JP」  
すべての欠損は、この2軸上で直ちに評価される。

「この誤差は脅威か？」 (F軸)

「この誤差は関係性に影響するか？」 (O軸)

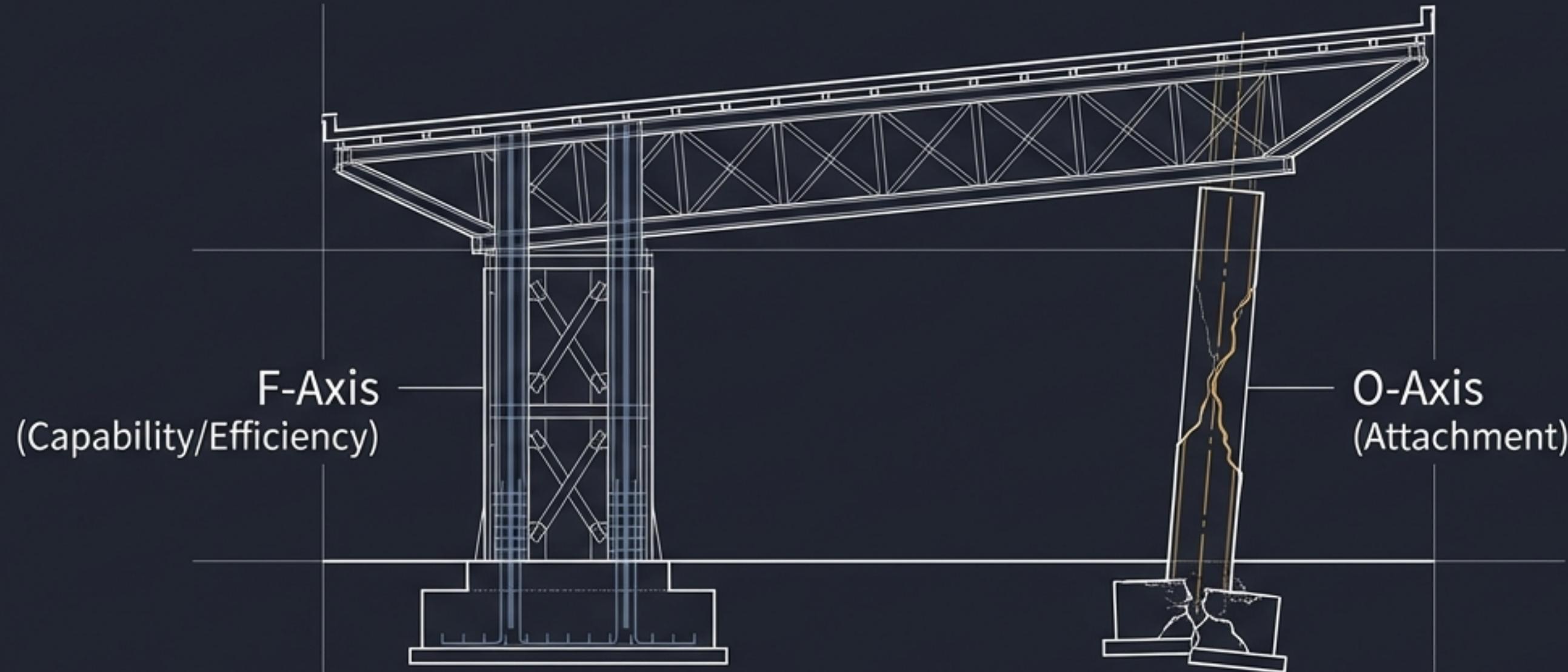


# 葛藤空間の力学



# 構造的病理：「別の絶望」

## F軸過剰適応 (F-axis Over-adaptation)

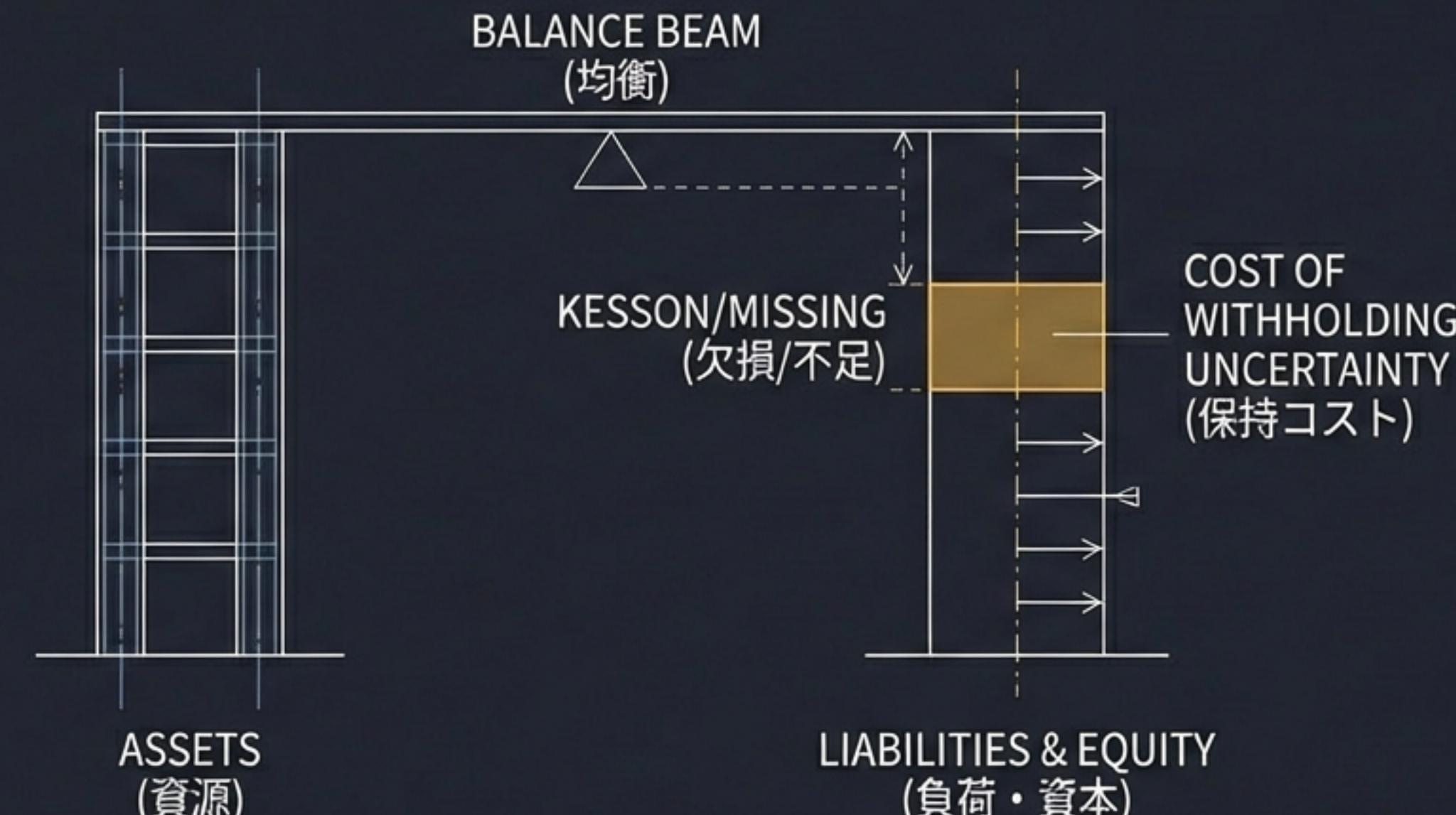


- O軸（安心）の欠乏を、F軸（有能さ）の過剰発達で代償する構造。
- F軸が機能不全に陥った時、隠蔽されていた欠乏が露呈する。

# 視点3：資源的構造 (BSPL Model)

意識の資源構造への補助線。

「わからない」を保持する (Withhold) には、コストがかかる。



# 二重PL構造：短期効率と長期意味

## PL-F (Survival PL)

- Timeframe: 短期 (秒~分)
- Focus: 生存・効率・解決
- Withhold = 損失 (Loss)



## PL-O (Meaning PL)

- Timeframe: 長期 (日~年)
- Focus: 愛着・信頼・意味
- Withhold = 投資 (Investment)



「短期的には損失に見えるWithholdが、PL-O上では関係性への投資として機能する。」

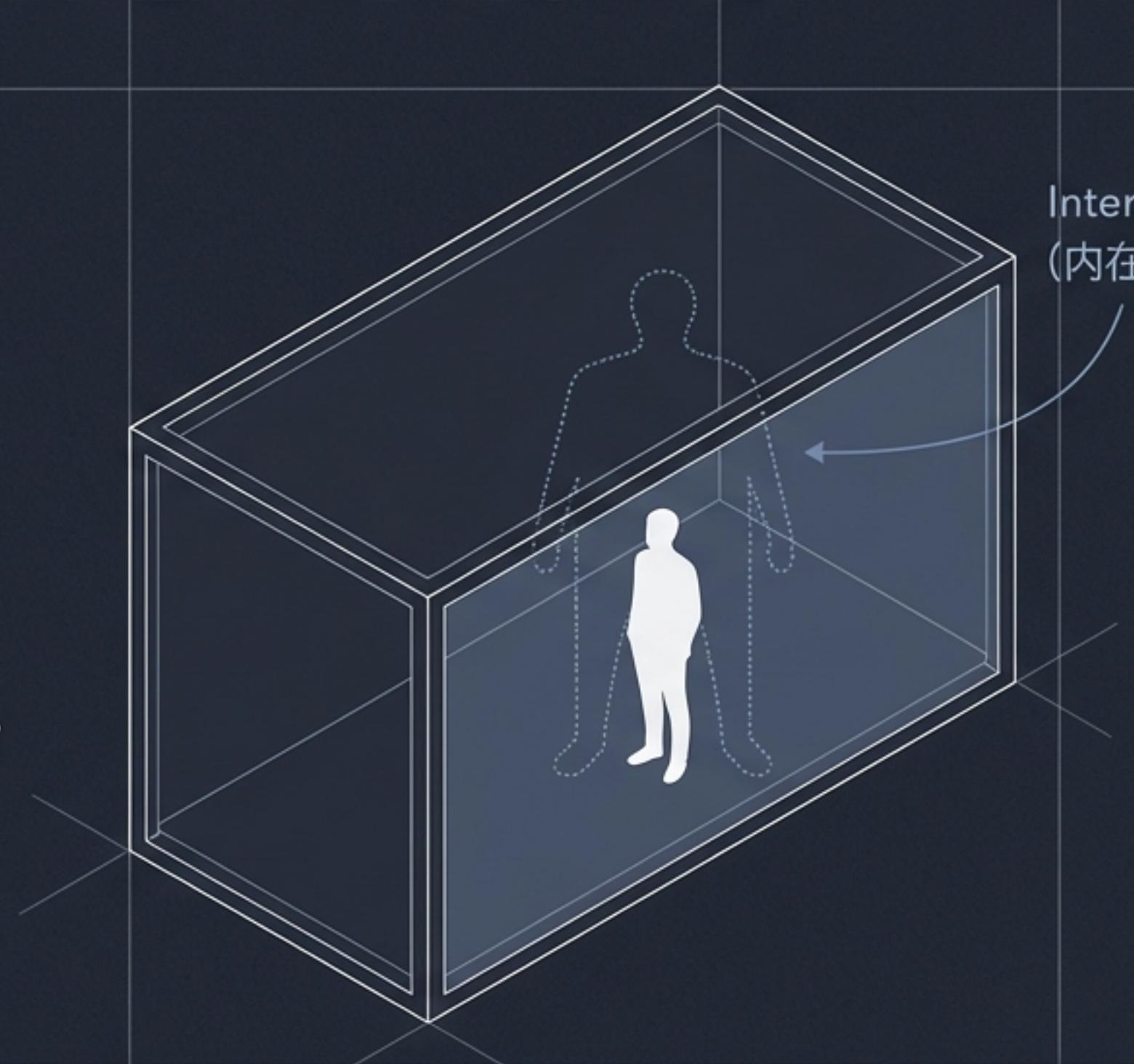
# 信頼の純資産仮説 (H17)



なぜ待てるのか?  
この純資産（安心の備蓄）が、短期的なPL-Fの赤字（不安）を補填する。

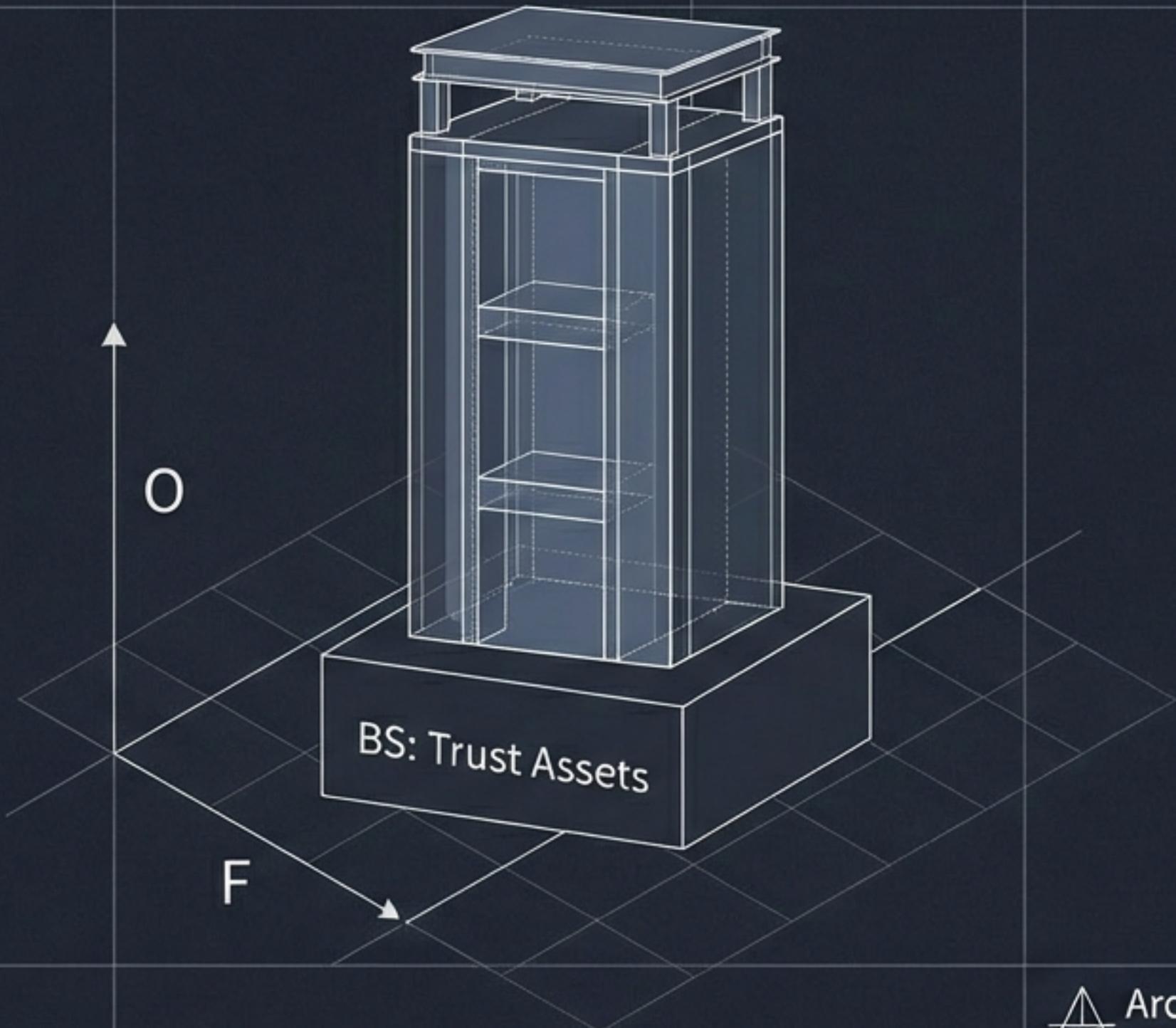
# 構造の外部性：ひとりでは待てない

- Withholdの成立条件は、個人の意志力ではなく「場」である。
- Internalized Other  
(内在化された他者)
- 物理的に他者がいなくても、記憶の中の関係がContainerとして機能する。



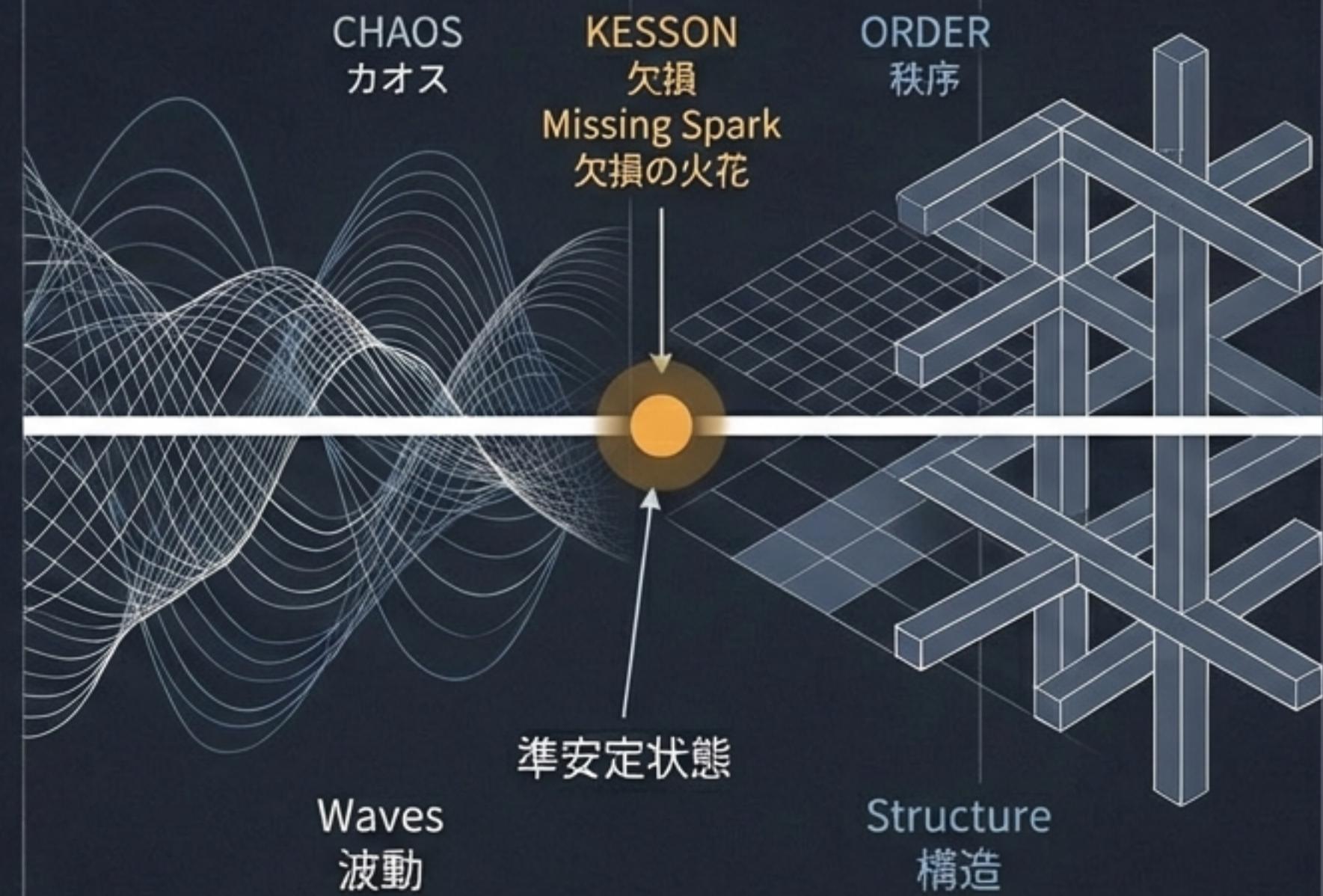
# 統合的アーキテクチャ

- F軸のContainment（生理的安全）のもとで、O軸のα変換（問い合わせとしての保持）が作動する。
- 出力が再入力される循環構造。



# 構造の機能：創造の「縁」へ

- Withholdによって保持された欠損は、即時解決されず「準安定状態」に留まる。
- Stage 3: 縁 (Relation/Edge)
- 創造は、際（境界）に留まることを経て生じる。



# 問い合わせを保持する構造へ

予測誤差をすぐに棄却せず、問い合わせとして保持する。

それは才能ではなく、設計可能な構造である。

Design not for the answer,  
but for the capacity to wait.

